

地域だより

みんなの



韓国文化にふれました

韓国宮廷料理

◆問い合わせ 生涯学習課
公民館・スポーツ係
(☎ 44-5110)

9月19日、市民会館で「韓国宮廷料理」講座が開かれ、25人が参加しました。

作った料理は、もち米でできた韓国のお菓子「菓飯」、彩りもきれいな「九折坂」の二品でした。

講師のペ・サントクさん（大韓民国総領事館 料理長）から、「お殿様に捧げる料理なので、心を込めて丁寧に作りましょう」との言葉に、受講生たちも緊張した面持ちでのぞみましたが、予想以上の素晴らしいできばえに最後は笑顔がこぼれていました。

受講生からは、「細かく切ったり、彩りよく盛り付けるのはたいへんでしたが、良い経験ができました。」「料理長から、じきじきに手ほどきをうけることができ、夢のようでした」と韓国の文化に触れたひとときを楽しんでいました。



▶手際よく料理を盛りつけるペ・サントク先生



女性の会讃歌を初披露

上伊田西地区 女性の会

9月27日、上伊田西地区で毎年恒例の敬老会が行われ、女性の会が「女性の会讃歌」を初披露しました。

作詞・作曲をしたのは、同地区在住で元中学校教諭の片山美恵子さん。生まれて初めての作詞・作曲でしたが、この歌により女性の会の結束が強まればという思いで曲を作ったそうです。

同地区の女性の会は、平成16年に発足。皆会員制（隣組に加入している世帯の女性全員が入る）を基礎とし、「女性が参画することにより地域が活性化する」という思いを込めての発足でした。

片山さんは、この歌には3つの視点があると言います。一つは「命の大切さ」。二つ目は「この地に生きる大切さ」。三つ目は「みんなと手を取り合いながら幸せに生きていく」という視点です。

「この歌は命の讃歌です。命は2つとないかけがえないものなので大切にしてほしい。短い詩の中にたくさんの意味を込めました」と片山さんは話しました。



上伊田西『女性の会讃歌』
片山 美恵子 作詞／作曲
藤村 恵 編曲

一、輝ける 命を受けて
この地に生きる われ等
召されるその日まで
幸せに生きよう
手と手をとりあい ささえあい
手と手をたずさえ 結ばれた
大きな大きな 絆の中で
命はぐくみ 幸せに生きよう
上伊田西女性の会に 光あれ

二、歴史の流れを受けて
この地に生きる われ等
文化の香り高く
幸せに生きよう
心と心で 信じあい
心と心で 結ばれた
大きな大きな 絆の中で
命慈しみ 幸せに生きよう
上伊田西女性の会よ 栄えあれ

